

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2020年6月1日
(No. 98)

2020
*
6月

NPO法人エコシティ志木
代表理事 天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (26)

新河岸川 (九十川の旧河川)

新河岸駅から東へ徒歩 10 分程。前号で取り上げた旭橋で新河岸川を渡った左手に、新河岸川と小さな水路とに周りを囲まれた住宅地がある。ここは昔、新河岸川に伊佐沼からくる九十川が合流していた場所で、川の中州の湿地帯だった場所。住宅地に向かい東の方から蛇行しながら流れてくる水路が九十川の旧河川で、さかのぼると 5 分ほどのところに大正 2 年竣工の旧牛子堰 (水田灌漑のための堰) の跡が残る。すぐそばには新牛子堰と改修された九十川が真っすぐ流れており、下流で新河岸川に合流 (通信 95 号の表紙で紹介) している。写真は上流側から見た旧牛子堰跡で御影石の柱が 2 本建つ。(天田 眞)

2019年度の活動報告

<非収益事業>

[写真（無記載のもの）：青木 明雄]

1. 環境、施設の保全・管理および創出事業

(1) 里山の手入れ作業（担当：天田）

志木市の「公園美化活動会」制度に登録し、下記2か所の公園(斜面林)の日常管理を行いました。

①いろは親水公園こもれびのこみち

毎月1回の月例作業と、そのほかに不定期の巡回ごみ拾いや軽作業を行いました。月例作業は10回（雨天中止2回）、その他の活動は13回行い、延べ130名（非会員も含む）が参加しました。

主な作業としては、巡回ごみ拾い、シュロ・シロダモ・アオキ等の常緑樹の除伐、散策路沿いのササ等の刈込、落葉掃き、除伐発生材を利用した急斜面の土留め・落葉溜めづくり等を行いました。併せて、別項の新河岸川河川敷・堤防のごみ拾いも行いました。斜面林内のごみについては、近隣住民による鉢土の投棄、斜面上部からの投げ込み（長期間にわたるものを含む）、堤防から斜面下部への投げ込みが目立ちました。

等です。ごみについては、近隣住民による鉢土の投棄、湧水路のザリガニ捕りの子どもによるごみの散乱等が目立ちました。



(2) 河川敷の清掃（担当：天田）

下記2か所の河川敷で月1回のごみ拾いを行いました。この活動は埼玉県の「川の国広援団」制度の美化活動団体に登録しています。

①新河岸川

（右岸富士下橋付近から朝霞市境界まで延350m）

別項のこもれびのこみち斜面林の手入れ作業に合わせて、月に1回（年間9回：雨天等で中止3回）、延べ参加者約60名（非会員を含む）で、河川敷・堤防・斜面林との境界のごみ拾いを行いました。

②柳瀬川

（右岸志木中学校付近の延長400m）

月に1回（年間9回：雨天等で中止3回）延べ参加者49名で、主に水際と高水敷きのごみ拾いを行いました。



②西原ふれあい第三公園

毎月2回の月例作業と、そのほかに週1回以上の巡回ごみ拾いや様々な作業を行いました。月例作業は33回（雨天等中止3回）、その他の活動は109回行い、延べ331名（非会員も含む）が参加しました。

主な作業としては、巡回ごみ拾い、落葉掃き（公園内と周辺道路）、園路沿いの草刈、低木類の刈込・剪定、樹林内の中低木の除伐・剪定、タケの除伐、ササ（アズマネザサとヤダケ）の刈取、除伐木や剪定枝・枯枝を利用した急斜面の土留め・落葉溜めづくり、希少植物保護区域の下刈・侵入防止柵づくり

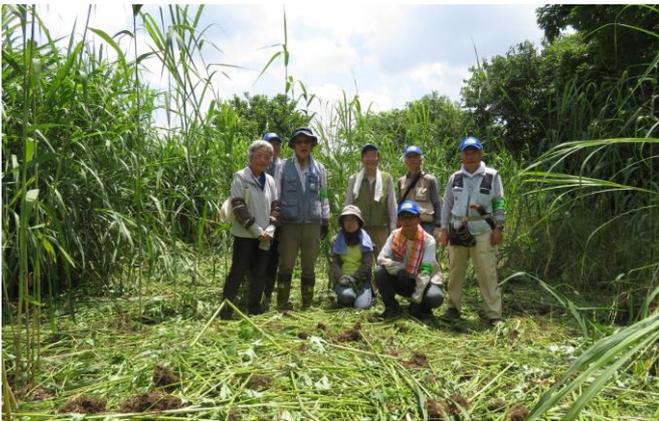


(3) 外来植物駆除事業 (担当: 青木)

①カヤネズミ原っぱ環境応援作戦 2019

～いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」の
保全作業～

カヤネズミ原っぱ(いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」)のヨシ・オギの保全とカヤネズミやオオヨシキリなど希少生物の保護を目的に、5～8月に計7回主にオオブタクサ抜き取りを実施しました。延べ人数は70名で、内会員は49名、社協からのボランティアは21名でした。抜き取ったオオブタクサの本数は、約85,000本でした。



②柳瀬川・外来植物駆除作戦

・志木中学校との駆除作業

志木中学校前のオオブタクサが大幅に減少した為、志木中学校との協働作業は、中止しました。その後の経過観察では、オオブタクサが目立ってきたことから、次年度以降は、志木中学校との協働作業の継続が必要と考えています。

・会員での駆除作業

5月から毎月1回の実施計画でしたが、5月26日(日)、6月24日(日)、8月11日(日)の計3回の駆除作業を実施しました。7月は、雨の為中止となりました。延べ人数は、13人でした。



2. 調査、研究事業

(1) 身近な川の一斉調査 (担当: 天田)

毎年1回行っている調査で、「新河岸川水系身近な川の一斉調査」と「身近な水環境の全国一斉調査」を兼ねて、全国一斉調査日の6月2日(日)に実施しました。志木中学校科学部生徒の参加を検討しましたが日程が合わず、当会会員7名で実施しました。手分けして7か所の水を採水し、志木中学校前の柳瀬川堤防上に机を置き、通行人に公開する形で測定作業を行いました。調査結果はエコシティ志木通信95号に掲載しましたが、例年と比べて大きく異なる傾向はないものの、荒川のpHが高いのが目立ちました。全国では697団体で6,241地点(埼玉県では68団体、522地点)の水を調査し、結果は全国水環境マップ実行委員会のホームページで公開されています。(1回)

◆主催: 新河岸川水系水環境連絡会
全国水環境マップ実行委員会



(2) 市内いきもの調査 (担当: 青木)

市内をいくつかの地域に分けて、「生きもの調査」を行いました。「志木生きもの図鑑」作成に併せて現地確認を行った時の区域をベースに行いました。調査対象の生きものとしては、魚類と水生生物の調査も行い、「柳瀬川水族館」として、志木中学校前の土手で展示しました。

5月13日	柳瀬川と水谷田んぼ
6月16日	柳瀬川水族館(志木中学校前)
7月21日	柳瀬川水族館(志木中学校前)
8月18日	柳瀬川水族館(志木中学校前)
9月15日	柳瀬川水族館(志木中学校前)

10月7日	荒川堤外
11月11日	志木ニュータウン
12月8日	柳瀬川と水谷田んぼ
1月19日	柏町及び本町周辺
2月16日	雨の為、中止
3月15日	新型コロナの影響で中止



柏町及び本町周辺

3. 観察会及び学習・教育事業

(1) 柳瀬川であそぼう (担当：青木)

柳瀬川を舞台に、自然に親しむ川ガキを養成する体験講座として準備しましたが、台風の為、中止としました。

日時：7月28日(日) 9時～12時

参加予定者はスタッフを含めて66名でした。

◆後援：志木市教育委員会

(2) 自然観察会

① 志木の自然観察 (春) (担当：天田)

～柏町ふれあいの森と西原第三ふれあい公園～

4月13日(土)に15名の参加で「柏町ふれあいの森」と「西原ふれあい第三公園」で野草や樹木を中心に自然観察を行いました。また、集合場所の柳瀬川駅から柏町ふれあいの森に至る間も道端の植物の観察を行いました。



[写真 天田 眞]

② 志木の自然観察 (秋) ～柳瀬川左岸の針ヶ谷田んぼと水谷田んぼ～ (担当：天田)

9月16日(月・祝)に東上線上流側の耕作放棄地と水谷田んぼの水田や耕作放棄地及び調節地予定地を対象に自然観察を計画しましたが、雨天のため中止となりました。

③ 志木の自然観察 (冬)

～柳瀬川の野鳥～ (担当：青木)

2月2日(日)に開催し、31名が参加しました。柳瀬川駅サミット前に集合して、柳瀬川右岸の土手から栄橋手前まで、柳瀬川の野鳥を観察しました。富士見橋から高橋あたりまでの河川敷が浚渫工事の為、野鳥が見れるか心配でしたが、特段の影響もなく観察できました。今年の参加者からは、好評をいただき、生きもの図鑑も10冊購入いただきました。

◆後援：志木市教育委員会



(3) カヤネズミ原っぱ環境応援作戦 2019

～カヤネズミの巣をさがそう！～ (担当：青木)

カヤネズミ原っぱ(いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」)において、カヤネズミとその生息環境の保全への意識の醸成を図るプロジェクト「カヤネズミの巣をさがそう！」を実施しました。

真夏の暑い時期を避け、オオブタクサの大量花粉が舞い散る時期を避けながら、昆虫がまだ沢山いるタイミングをはかり開催しました。

今回も、高さ2m以上のカヤ原の中に道を切り開き、その中を歩きながらカヤネズミの巣探しやお宝さがし、そしてオオブタクサ抜き取り体験を行いました。

外来植物駆除や準備段階では見つける事が出来なかったカヤネズミの巣を、小学生が見つけてくれました。更に、昭和の土手で虫捕りを行ったり、これまでの矢投げとお宝釣りを行いました。最後にマシュマロバーベキューを楽しみました。柳瀬川水族館の展示も行い、カヤネズミ原っぱの中で貴重な自然をたっぷりと楽しんでもらいました。

日時：9月22日(日) 9時～12時

対象：小学生以上

参加者：スタッフを含めて64名

◆後援：志木市教育委員会



(4) ぶらり散歩 (担当：天田)

①新河岸川ぶらり散歩 第1回

新河岸川を志木からさかのぼるシリーズの第1回として、11月17日(日)に、10名の参加で、村山快哉堂前から福岡河岸跡(ふじみ野市)まで、新河岸川に沿って歩きました。途中、旧河川、明治時代の煉瓦樋門、昭和初期の砂川樋管、渋井水門と新河岸川放水路などを経て、福岡河岸記念館(旧回漕問屋)を見学して解散しました。

また、3月22日(日)に第2回として福岡河岸跡から仙波河岸跡までを企画しましたが、新型コロナウイルス感染予防のため次年度に延期としました。



②志木ぶらり散歩

～幸町・柏町の野火止用水分水等の水跡を歩く～

6月23日(日)に12名の参加で、幸町及び柏町の野火止用水分水路跡やその水を利用した水車のあった場所、湧水のあった場所、柳瀬川の蛇行の跡など、水に係る歴史を訪ねながら歩きました。



(5) 小学生の環境学習への協力 (担当：天田)

小学校や小学生が参加する地域団体の学習に協力しました。

- ・志木小学校 こどもエコクラブ(4～6年)
16回 生徒 17名 スタッフ 2名
- ・志木第三小学校 3年総合学習(柳瀬川の自然)
1回 生徒 100名 スタッフ 6名
- ・志木第四小学校 5年総合学習(柳瀬川の自然)
1回 生徒 66名 スタッフ 5名
- ・三芳町竹の子エコクラブ
柳瀬川の水生物調べ
1回 親子 38名 スタッフ 6名



(竹の子エコクラブ)

(6) ボランティア体験者の受け入れ

(担当:天田)

志木市社会福祉協議会主催の「福祉学園／地域団体ボランティア体験プログラム」に協力し、7月27日～8月13日の間、いろは親水公園カヤ原のオオブタクサ抜取作業、同こもれびのこみち手入れ作業、西原ふれあい第三公園手入れ作業に、27名のボランティア体験者を受け入れました。(そのうち9名は入庁2年目の志木市職員)

(7) 市民向け講座での講師

①川のボランティア体験講座 (担当:青木)

5月26日(日)(13時～16時)に開催された埼玉県環境部水環境課主催・NPO法人エコシティ志木共催「プラごみゼロ!川のスペシャリストとごみを調べよう・生きものや自然を学ぼう」の講師を務めました。(エコシティ志木講師4人、一般参加者14人)。

テレ玉から「いまドキ!埼玉」の取材があり、放送されました。

第1部 柳瀬川図書館視聴覚室にてプロジェクター等にての講座

- ・柳瀬川について
- ・市内を流れる柳瀬川の自然と生き物
- ・マイクロプラスチックと川のごみ問題
(埼玉県水環境課)
- ・川の環境を守る活動について
(ボランティア体験談)

第2部 ボランティア体験・自然観察

- ・サミット前河川敷から富士見橋下の河川敷でのごみ拾いと分別調査・自然観察



(8) イベントへの参加・出展

①こどもまつり (担当:天田)

(主催:志木おやこ劇場)

5月12日(日)に館近隣公園で開催された第26回こどもまつりで、「柳瀬川出前水族館」展示を行いました。



② わっか祭り (担当:青木)

(主催:わっか祭り実行委員会)

9月28日(土)に館近隣公園で開催されたわっか祭りで、「柳瀬川出前水族館」展示を行いました。



③辻銀杏(つむじいちょう)で街あわせ

(担当:天田)

(主催:辻銀杏で街あわせ実行委員会)

10月5日(土)に志木ニュータウンペあも〜る商店街の空き店舗で開催された第11回辻銀杏で街あわせに参加し、「身近な自然の小さな博物館」展示、活動資料の配布を行いました。



④いろはふれあい祭り (担当：天田)

(主催：いろはふれあい祭り運営委員会)

10月19日(土)～20日(日)にいろは遊学館で開催された第15回いろはふれあい祭りに参加し、「柳瀬川出前水族館」「身近な自然の小さな博物館」の展示や別項の活動紹介写真パネルの展示、水塚の文化誌の展示を行い、活動資料の配布を行いました。また、18日(金)には志木小学校生徒がクラスごとに見学を行いました。



[写真 天田 眞]

⑤富士見ふるさと祭り (担当：青木)

(主催：富士見ふるさと祭り実行委員会)

10月26日(土)に富士見市役所周辺で行われた「富士見ふるさと祭り」に参加し、「柳瀬川出前水族館」「昆虫標本」の展示や別項の活動紹介写真パネルの展示を行い、活動資料の配布を行いました。



4. 出版、広報事業 (担当：青木)

(1)「エコシティ志木通信」発行

会員向け本誌(A4、12ページ)と一般配布用イベントカレンダー(A4、4ページ)を4回発行しました。伊藤智明さんによる環境ひとくちメモは、通信94号(2019年6月1日)の52回を以って終了となりました。代わって通信第95号(2019年9月1日)からは、会員紹介を掲載しています。

又、宇津木美恵子さんによる小笠原の旅も、通信94号(2019年6月1日)の12回を以って終了となりました。代わって通信第95号(2019年9月1日)からは、本間敏文さんによる巨樹との出会いの連載を始めました。特集の「市内の自然を訪ねて」(青木明雄担当)は、中断し、生きもの図鑑の紹介を各チーム毎及びプロジェクトの推進について、通信94号(2019年6月1日)から4回に亘って掲載しました。

会員紹介 林 秀樹さん

皆さん、こんにちは。2014年の新春の頃、当会に入会した「林秀樹」と申します。早速ですが、この写真なんだと思いますか？ 実はこれは、皆さんが大嫌いなゴキブリの顔のアップ、正確にはクロゴキブリ成虫の頭部の拡大写真です。なんでこんな写真をお見せし

社はゴキブリなどの嫌な虫を生業としていました。私は数年前にその会社を定年退職したのですが、その会社の名前は「アース製薬」と言い、殺虫剤、オーラルケア製品、入浴剤などの家庭用日用品を製造販売している会社でした。そのようなわけで、会社の研究所の生物飼育棟では、ゴキブリ100万匹、蚊とハエが10万匹、ダニ1億匹など、約100種の害虫が飼育されており、商品開発や生態研究などに使われていました。私自身はこれらの害虫を直接扱っていたわけではありませんが、門前の小僧のように、まあそれなりに詳しくなっていましたというわけです。話が嫌な虫の方にそれてしまいました。私は石川県白山市という田園風景の広がるどかな町で生まれ育ちました。自然豊かなところで育ったにもかかわらず、自然の動植物に対しては、先ほどの嫌な虫たちとは異なり、あまり知識がなく、エコシティ志木の先輩諸氏に教えを請いながら、活動を続けている次第です。今後ともよろしくお願いたします。



たかとうと、私が長年勤めていた会社にはこの嫌な虫がたくさんいたからです。何とも不衛生で、働きにくい会社だと思われたかもしれませんが、実はこの会

(2) ホームページ管理 (担当: 青木)

当会公式ホームページ及びブログにて活動情報発信を行いました(上期 34 件、下期 28 件)。また、毎月の行事案内を行いました。



(3) 活動紹介展示 (担当: 青木)

各種催し物会場において当会の活動を紹介するパネル展示を行ないました。

①いろはふれあい祭り 10月18日(金)~20日(日)

(主催: いろはふれあい祭り運営委員会)

②川でつながる発表会(東大和市) 12月21日(土)

(主催: 新河岸川流域川づくり連絡会)



③富士見ふるさと祭り 10月26日(土)

(主催: 富士見ふるさと祭り実行委員会)

④川の再生交流会(浦和) 2月1日(土)

(主催: 埼玉県)



(4) 『志木生きもの図鑑』刊行事業 (エコシティ志木創立 20 周年記念事業) (担当: 青木)

2015 年 4 月から志木市を中心とした散策の際に携行して、見かけた生き物の名前を調べやすいハンドブックとしての「いきもの図鑑」を作成してきましたが、2 月 1 日に刊行しました。

今年度の会議は、レビューを中心として、28 回実施しました。

部数は、1,000 部。印刷費は、消費税が 10%に上がり、1,002,100 円となりました。

会員及び関係先(環境省、埼玉県・志木市役所等)に配布。志木市内公共施設及び図書館への配布。慶応志木高校への配布を行いました。その他の市内小中高等学校については、2020 年度に配布予定。又、当会のイベント参加者へは、希望者に 700 円にて提供を開始しました。



5 エコミュージアム事業

(1) 志木まると博物館 河童のつづら

(担当: 青木)

志木市をまると博物館にみたくたエコミュージアム事業「志木まると博物館河童のつづら」については、今後に向けての見直しを計画していましたが、実質的な着手はできませんでした。

6 提言事業

2019 年度は実施しませんでした。

<収益事業>

2019 年度は実施しませんでした。

- ①ウグイスカグラ 3月31日 幸町[庭野 恵子]
- ②アオダイショウの子供 4月1日自宅(写真無)
毎年来ているヒキガエルが来ない [寺田 明子]
- ③アケビ 4月14日西原 [庭野 恵子]
- ④コクサギ 4月14日西原 [庭野 恵子]
- ⑤ハイイロヤハズカミキリ 4月15日[天田 眞]
西原斜面林の堆積していた枯れたタケの中
- ⑥タンポポ 4月16日志木中柳瀬川土手[平澤 佳奈]
最近減ってしまった気がします川沿いで
カントウタンポポを見付けました。
特別な春のなか、とてもうれしかったです。
- ⑦ウラシマソウ開花 4月23日西原斜面林[天田 眞]
- ⑧マツバウンラン 4月23日日本町 [庭野 恵子]
- ⑨ヨシ 5月8日 カヤネズミ原っぱ [松田 勝正]
<以下、5月13日西原にて[島 光男]>
- ⑩ジャコウアゲハ(メス)
- ⑪マエアカスカシノメイガ
エノキの葉の裏にいました。
- ⑫ホソヒラタアブ
- ⑬アジサイハバチの幼虫かなりの葉が食い荒らされています。
- ⑭ナミテントウムシのサナギと成虫
- ⑮クロウリハムシ
- ⑯エゴノキの花 白くて可憐な花が満開です



会員紹介 細田 和子さん

～志木のまちの自然の中で～

昭和 30 年代志木小学校の担任の先生が野外活動が好きで良く連れ出してくれた。思い出に残るのは、はげの山の雑木林、志木小から中野(どんぐり公園)の不動様の滝を巡って高橋の方へのコース。その頃、柳瀬川の向こうはうっそうとした森で家も田も見えなかった。高橋は一人がやっと歩ける位の狭い木の橋だった。紅葉の頃大変美しく写生もした。私の家は昭和新道で慶応高校農学部生徒が馬で時々散歩するのに出会った。馬は道路にお土産を落として行くのどかな時代だった。農家には牛も飼われていた。足立中学校 1 年の理科の時間に蛙の解剖をした。先ず学校の東側(中野下住宅辺り)の田んぼで蛙を捕まえてくる。そしてグループで解剖したのを思い出す。その翌年中野下住宅の工事が始まり雑木林も田んぼもなくなり広い広いランド(今の志木中)ができた。団塊世代、町に 1 校の中学、一組 50 数人、6 組 3 学年、ワイワイ賑やかだった。私の好きな景色は校舎の 2 階から眺める柳瀬川方面、東上線が 2 両か 4 両鉄橋を渡って行く。その向こうに広がる一面のレンゲ畑、春は最高だった。レンゲ摘みの他芹摘みも良くやった。宮戸の方へ行くキノコも採れた。44 年に町に初めての保育所が宝幢寺の所に出来、

保育学校を卒業した年だったので、それ以来 24 年も勤務することになった。子供たちと自然の中で遊んだ。宗岡時代もまだ田んぼも多く「飼いうさぎ」の餌用として、タンポポやギシギシをみんなで採りに行き育てた。ヨモギを採って草餅を作ったりイナゴを捕って煮て食べたり自然と関わりながらの日々が続いた。エコシティ志木が発足し、1998 年から会費納入のみの時が長く続いた。この度 20 周年記念の「志木生きもの図鑑」制作プロジェクトに、ちょっと関わらせてもらい良い体験をした。今後も自然環境を大切にしたいと思う。志木市のゴミ収集車に『4R』リサイクル、リユース、リデュース、リフューズが描かれてる。市長の提唱する市の視点を多くの人に伝え地球環境を守る志木市でありたいと思う。



☆会員状況

会員数（5月20日現在）

正会員（個人） 42（内、新入会員2）

正会員（団体） 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2020年度の年会費は、郵便振替（振替番号 00510-4-13225）にて納入をお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体 ネットワーク

登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティー協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

志木市教育サポートセンター

市内小中学校

**情報満載！
当会のホームページ**

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

お知らせ

青木 明雄

前回刊行し、配布しました「志木生きもの図鑑」に誤りがありましたので、今回の通信98号にて正誤表を同封しました。配布した部数分の正誤表を同封しましたので、お手持ちの「志木生きもの図鑑」に差し挟んでご利用ください。「志木生きもの図鑑」の制作にあたっては、かなりの時間をかけて確認をしてみました。今回のような誤りがありまして大変申し訳ありませんでした。新型コロナの影響で、外出の自粛要請が出ておりましたので、十分な自然観察が難しい状況ではありますが、市内を散歩される際には、是非、携行いただき、観察を楽しんでいただきたいと思います。

「志木生きもの図鑑」正誤表

32頁マスクサ

誤：写真2枚（別種の野草の写真）

正：写真大

（苞と穂）



写真小

（穂）



76頁アオキ

誤：ミズキ科

正：アオキ科

アリ科はハチ目の一部です。女王アリと共に多くの働きアリなどがコロニーをつくり社会生活をしており、これはスズメバチやミツバチなどと似ています。

ふつう見かけるのは働きアリ(雌)で、女王アリは巣の中で産卵に専念しています。新しく生まれた女王アリには翅があり、同じく翅をもった雄アリとともに巣から飛び立ち結婚飛行を行い交尾します。交尾後の新女王は翅を切り落とし、新しい巣をつくり始めます。食性は幅広く、アブラムシの出す甘露(甘い蜜)に集まったり、虫の死骸を解体し持ち帰るのをよく見かけます。

よく見かけるアリで一番大きなのがクロオオアリ(体長7~12mm)。黒色で腹部に毛が多く生えています。草地や裸地の地中に巣をつくり、巣口の周りに掘り出した土が山になっています。

もっとも多いのがクロヤマアリ(4.5~6mm)。体

色は灰黒色ですが、クロオオアリによく似た体形で、巣も同じような場所につくります。1つの巣に複数の女王と数千の働きアリが暮らしています。

小型のアリで最も多いのは黒褐色のトビイロケアリ(2.5~3.5mm)。草地や裸地のほか森の中の地中、石の下、倒木などに巣をつくります。アブラムシの群れによく集まっています。

アミメアリ(2.5mm)は黒褐色で頭部・胸部に多数の細かな突起があります。女王アリをもたず働きアリが産卵し、頻繁に行列をつくって巣を引っ越します。

キイロシリアゲアリ(2~3mm)は黄色で艶があり、複数の女王で巣作りします。

林内の落葉や倒木に住むウロコアリ(2mm)は黄色で大あごを持ちます。



クロオオアリ



クロオオアリの女王(18mm)



アブラムシに群がるクロヤマアリ



ヤブカラシの蜜をなめるトビイロケアリ



トビイロケアリの女王



アブラムシに群がるアミメアリ



アミメアリの行列



穴に群がるキイロシリアゲアリ



ウロコアリ

巨樹との出会い

《 2 》 志木市の巨樹たち…その3

本間 敏文

さて、前回に引き続き「ケヤキ」について触れていきましょう。

名の由来は、強く美しい材が、他の樹木と比べ目立つことから「けやけき」木とされたようです。

ところで、ケヤキは街路樹として多く植えられています。大きくなるので枝を落とされ不格好な形になっているものを見かけますが、本来は、扇形に大きく広がり、美しい樹形をしています。しかし、中には扇状に枝が張らず、垂直に伸びる性質を持つものがあるため、近頃は、街路樹等ではそういう品種が植えられているようです。



【宝幢寺の本堂側のケヤキ】

話は変わりますが、植物の種子の散布方法には色々な方法があります。

散布方法としては、動物散布、風散布、水散布、自動散布等があります。

ケヤキは風を利用して種子を散布するタイプです。写真のように、葉の付け根に種子が付きまます。秋になると、小枝の付け根から小枝、葉、種子が一緒になって落ちて、風に吹かれて散布されます。このように、小枝と小さな葉のコストをかけてちよつとでも種子を遠くに散布しようというケヤキの生存戦略が感じられます。

なお、ケヤキの葉には大きいものと小さいものがありますが、種子を付けた小枝は小さい葉です。



【ケヤキの種子】

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大防止為の外出自粛要請を受けて、エコシティ志木の活動もほとんど中止としました。例年5月に行っておりました総会も6月以降に繰り延べて計画しております。98号は、2019年度の活動を纏めさせていただきました。充実した当会の活動をお伝えできたでしょうか。（青木明雄）

エコシティ志木通信

第98号 2020年6月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com